



攝
関
之
儀

73
6386



為重信

攝國之儀記

為重信

攝園之織記

73
6886



擧関之目付

一 擧関之目付 擧改ハ占下ニハ忠仁公始

一作法 擧家前ノ事ニ引カレハ云々

一 即位ノ目付

一 すい身兵仗

一 祐馳鹿徒 すいさん

一 三云

一 八京間ニ関白著ノ事

一 公王ノ位ノ叙ハ一ノ勅洞

一 主上御成ノ時ノ物事ノ次列

去
水
五味
均
平
蔵



Table with 12 vertical columns and 10 horizontal lines, currently blank.

一 通障子
一 殿と座

トナリ志やうしト云ハあやまら也

Blank lined area for writing on the right page.

攝関

一 攝政と云ハ聖徳太子ノ法ハ始 皇太子ニモ

兩人カト有

職源抄ニ出

其後百下ニ下ル

清和天皇ヲサるウリノ故 山ノ又ノ方 母方

祖父忠仁ニ攝政

周成王ト云ケルウリノ故祖父
周公旦ト云人攝政始

山ノ又ノ方ニシテふク庵子ト云テ又ハ関

白ハウリ

一 関白ハ 漢朝ニ霍光ト云人ニ政ヲ関リ白

セトテ政ヲあツキ有リ 是関白ノ始

我朝ニシテハ 陽成院ノ時昭宣公ノ始

宮内省

攝家と云ハ 攝政家と云セリ有
関白も是くの代ニハ 無ク其も有云ハ 亦ニ
んとして 一ハ

一 君臣ト云ハ 天地開闢ノ始

天照大神マ 且見屋敷者 伊兄弟君

臣の心をくそくしりしと云 こそ子の有

とし春日友成氏の祖神ヤ

攝政家ニ 四箇の大名と名ツケテ 貞信云

心身代くと云 亦侍と侍る有

第令 官奏 叙位 除目

執筆有

節義の内にも ぬり ぬり ぬり ぬり
以傳受事 且活華流るりし ぬり ぬり ぬり ぬり
こころのゆきし ぬり ぬり ぬり ぬり

百寮抄 諸家家業ニ云 康道依

是れも ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり

み ぬり ぬり

と云ハ 中ノ義の改をやり行今よてハ
こ計し 關東の老中の改とと云ハ
関白志し 亦 日本書紀の義を
やり行ゆし云

右の色友いさおひのつとくをいひのち
冥白より神ヤリ候 後、又甚いおひ
に

准冥白 在代 九条輔實 二条綱平

何志あるに 名もいひ候

いさおひよりいさおひ

近代よりいさおひのいさおひ

いさおひ久きいさおひ

あまのいさおひのいさおひのいさおひ

いさおひのいさおひのいさおひ

町院

いさおひいさおひと中いさおひ物こと

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

いさおひいさおひいさおひいさおひ

うきりの友 冥白よりし。主と
ららつゝも中思石あはれ何もら
ちぬぬの けくら所院の院り所の
村一条道香梅改り何れも何れ後
のらららしい友誠の名計りて
つとて梅改りさるる何れも何れ
先せけんのかいさる 冥白とあはれ
人くらんそりや一糸梅改りあは
く断院り在位のかいさる中梅改り
りさるる何れも何れと友 是れあ

あはれり何れも何れも何れも何れも
のらららしい 先帝の思石として
あはれり何れも何れも何れも何れも
らららしいあはれり何れも何れも
らららしいあはれり何れも何れも
このらららしいあはれり何れも何れも
東りも何れも何れも何れも何れも
こめえり何れも何れも 心算能 心算
先帝の思石として 冥白とあはれり
美と息とからり何れも何れも何れも

るはるお、京都のきき人へ笑と
むのゆゑ、かゝるのり友先いさ
ひさても又ゆるくもせいおひさ
ぬものも、と、と、と、と、と、と、
り有る冥白も名計の物考、
大 逸代も、又文仁、
中、と、と、連枝、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、

逸代も、も、當家元祖、の、の、の、の、

くけ、る、も、も、た、た、た、た、
後、院、院、院、院、院、院、
と、と、と、と、と、と、と、
有、一、一、一、一、一、一、

は、後、院、院、院、院、院、院、

一、大、冥、白、志、く、く、と、と、
の、政、を、と、と、行、く、
諸、人、の、心、を、つ、く、
と、と、と、と、と、と、と、
の、心、を、と、と、と、と、

と授けられけりし何れ作法の傳受を
しるは用もつる友弟子に
法華といふも今こゝん法華久我
るは作法の傳受のいふは
家の庶流の流に多中教の流と學
と西室古花山流ありしに以て家れ作
法不洞法とて傳へりしなり
家流とて傳へりし庶流に
此を中家の友極家流と
作法と習ふは友極家流の
中子

家れつゝくは庶流もいふは
と傳受の友極たのめ友極中子家れとつゝくは九条 一條 二條
ありし家れと中子とありし
家れ流と
ちる流近流の家れにありし
作法方ありしを併法華
流といふ今ては極大の庶流計ありし
云てありしはかゝるの義に
かゝるの義もありしなり
つゝおとては又明白に傳説と
り宣ひし是も法華とては法華

とて致し家来何のころも頼の時
致し出さるるを中見する是ヲ内
換と云垂る主人にみせぬものと
何のち致しやらさる友も
冥白のしきあひさるるも内換又
也と役人底かきしつゆも
かきし皆の諸更の跡様るりゆ
何^{嘉祥}も^かも致しゆ又^かのゆも
かきし人友主人にしつゆも
かきしを法更役とてしつゆと

ヤツ

そとくしつゆのしきあひ有るゆ
是とありしゆも冥白もそとく
のしきあひ有るゆも
あつちあつちと冥白と白蛇
後^にと成人のともてしつゆと
ゆも多しつゆもゆもゆも
ゆ何のちあつちと主人と
ゆのあつちあつちゆもゆも
安系^く中山^の院^のともてしつゆと
宗院^連仁^のともてしつゆと

ル一とさうの美とまゝに〜
此美白と云ふは、
いふもよは沖成人の如く、
とさうの美とまゝに〜
その人、
とさうの美とまゝに〜
せん、
の美とまゝに〜

一 作法方

是は梅政の、

近代家業の、
の後、
身の家、
子、
かやせぬ

梅家、
一、
の、
の、

お大后とひすい身こもとをひらきし
いし— 靈元院法皇の御孫の御孫
ゆもたかくい親王方の始りし
作有滋野井入道公修の御孫
うらむの御孫の御孫の御孫
らむい多考の御孫の御孫

續日本紀

舍人親王 一品 志ん生

養老三〇十月 辛丑 賜

田舍人 二人 大舍人 二人

侍士

今の色侍の御

二十一人

新田親王

二品

田舍人 二人 大舍人 二人

侍士 二十一人

貞観十一年

良房公

天慶四年十一月八日 志平

是亦大后の隨身兵仗の始りあり
三人まゝ大后の兵仗の御孫あり

堂と云々の所 左右の御孫

たたとと恭智るらう

隨身 四人

中が将

日 二人

一前馳こせりの人数

一糸見及ふ 多人数

一糸晉改道香冥白 少くは冥白ね賢

一前馳先例も 三人と有

三ふおせよお礼の人とそ日東希

ら御、灰序有灰すいさんしてら出
合十人 一糸おそ 十人のら
二行 糸湯の家例 十人のら 一行
法を更 数らる時 一行 け法を更
わらち

當時追書因あ

た大臣の時 せんく殿と人 十二人

冥白の時 こせり 三人

らんく こせり 二人

こせり 二人

いはい人の友人の地位志を
北条礼を
志す

美白の志を
いはいの

友人
一人の中務左衛門
一人の大内
唐招北条礼

いはい願中納中山北条礼

願中納万里北条礼

願中納志を
いはい

節もいはい願中納北条礼

久我通見の志も大内志も北条

いはい願中納志を

源家とすいさんと承及

いはい

目見えの志を
いはい

いはい友人
いはい友人

又友人殿と人
いはい友人

是の時の人友人の志も

不苦當時の清華志も

いはい

三公

一十七條之法を以て作らば代々冥白のとき
二と著し十七條の三公に三人と云はれん
のせむ方も日あり

は美とけ能くあの人にお審りあり
是いねん家康公 毛下ヲ子にけり節

二事家康道走平ると云くこと
りしては美姑と 十七條の例に

ふあま人の美く後へ後と先祖の
又方ゆくはしりも一とんおとそ

定法中いひつうくれいゆ毛下のお
ていこのいよ成りたてて取おふ
立は

取は後陽成院より其山ふくしり
有徳之とくた有、座ヲこの着る
仰有

その後後水尾院後西院若元院法
皇より出下り前

一さく断院院中にてお成りせつひ
為丸光胤ゆきつそらるる

親王正位の座に在り、分著し、
 うぐしひひ、ひ、何れも作れり、
 おゆとの、い、う、作れり、
 といひ、ひ、あ、中七條のありて、
 うるお、い、い、お、い、い、何や
 うや、あ、ふ、い、い、親王方、
 り、い、い、い、い、い、い、
 子、い、い、い、い、い、
 笑、い、い、い、い、い、い、
 次、い、い、い、い、い、い、

養子も他情法、い、い、い、い、

と、清も、後、い、い、い、
基、い、い、い、い、い、い、い、い、

鷹司も、い、い、い、い、い、

當時諸家、い、い、い、

源、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、

一 八系、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、

あれはことごとくありて実白計に法家
の罪を作有てふ及勅問は

そのうちそた旨以下作有

一之と成人の時ハ物の中上次第

よそは其時モ実白もねりらる

るらぬものよそ

市々所院院中一候多和院参

あり時志き一々もそをへ遊

弘石守をなして多迄答有とと

いふなり大在一列そよのゆらる

院のあり迄答次中ニ勅許きし

よめとて遊に方なりは迄院多和

計のちそ時のもき一西親所

頭中將物語は

そは一系極改とて一とり各計

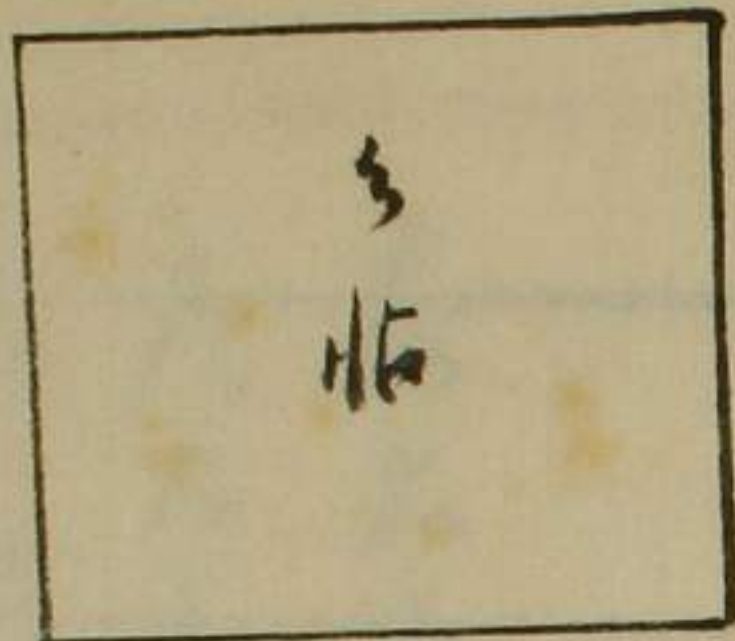
よそ何も院の思石次中

通障子

一 是、冥白の将節会のせりり
 しろ、お役の座あり、しろ、
 しろ、又せりり、のせりり、陣、冥白
 あり、たふ、お役、陣、しろ、
 しろ、

信、つ、の、冥白、も、云、人、有

某家殿



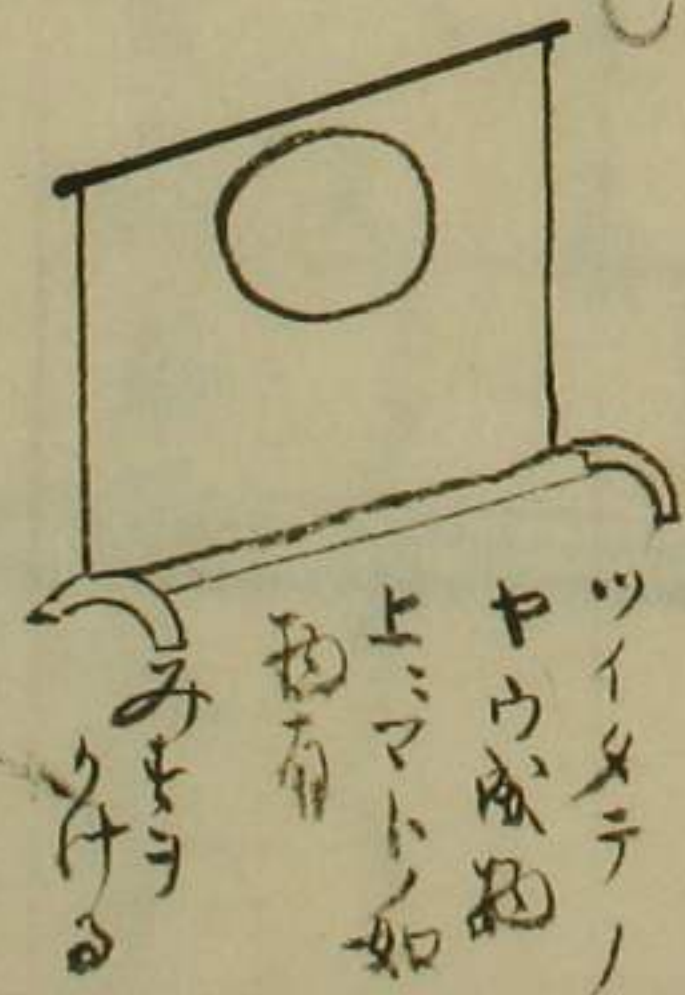
由侍屋二人

冥白座
ツマヤリ

冥白座

信

つ、ま、や、り

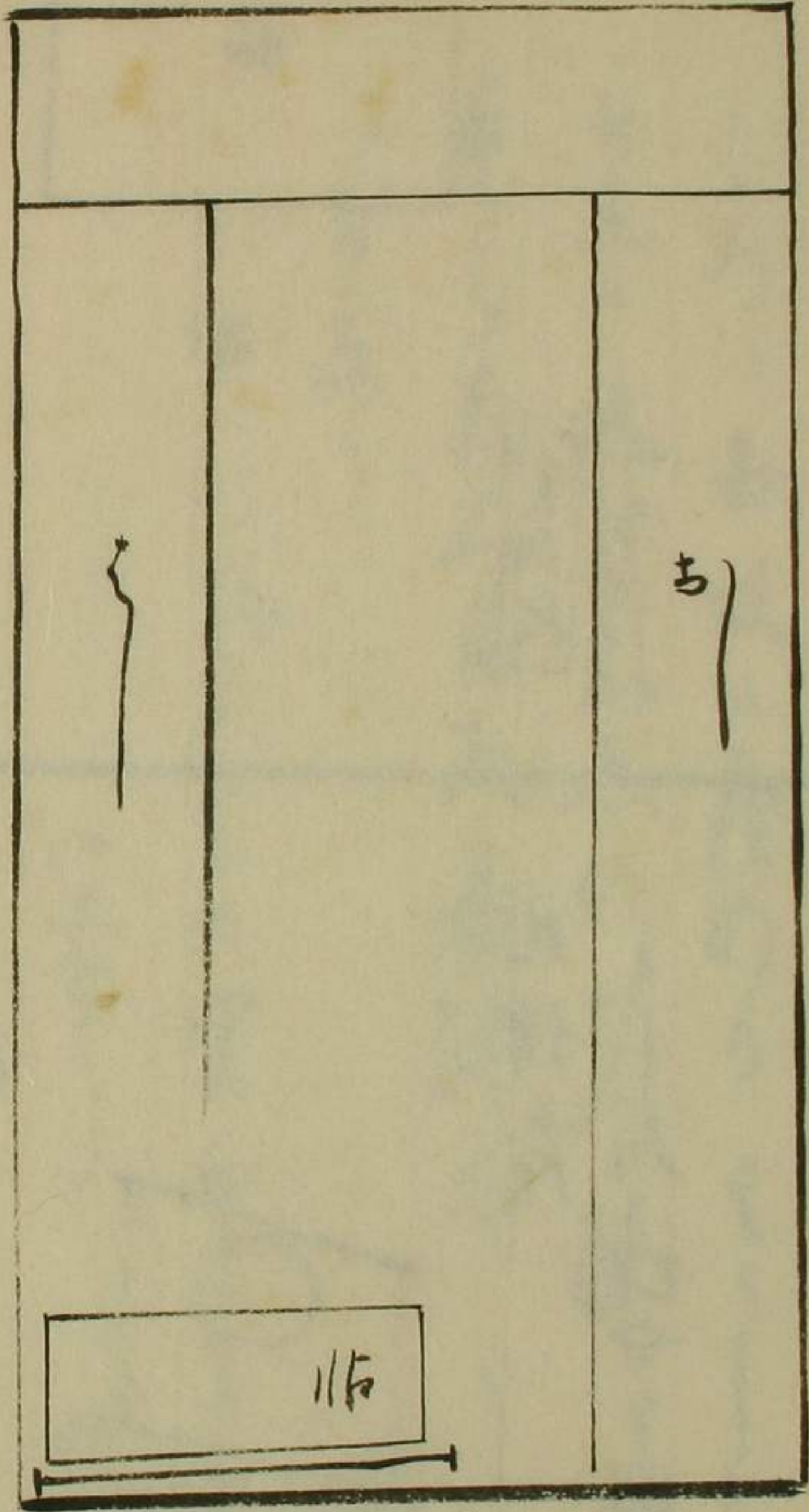


由侍屋

ろ、ろ、む、や、り、敷

信

陣産



し
く

一ノ上の時の作らぬて 端の産づく
是ヲ一ノ上と云ふ右左長短なる右左長

一ノ上の美有

右左長実白なるわくくく
右左長ありく次右左長、実白右左長が
ふ集として美有

寶曆七年三月十六日 内前左左長

実白くうくく三月末迄次右

左長くく一ノ上の美有

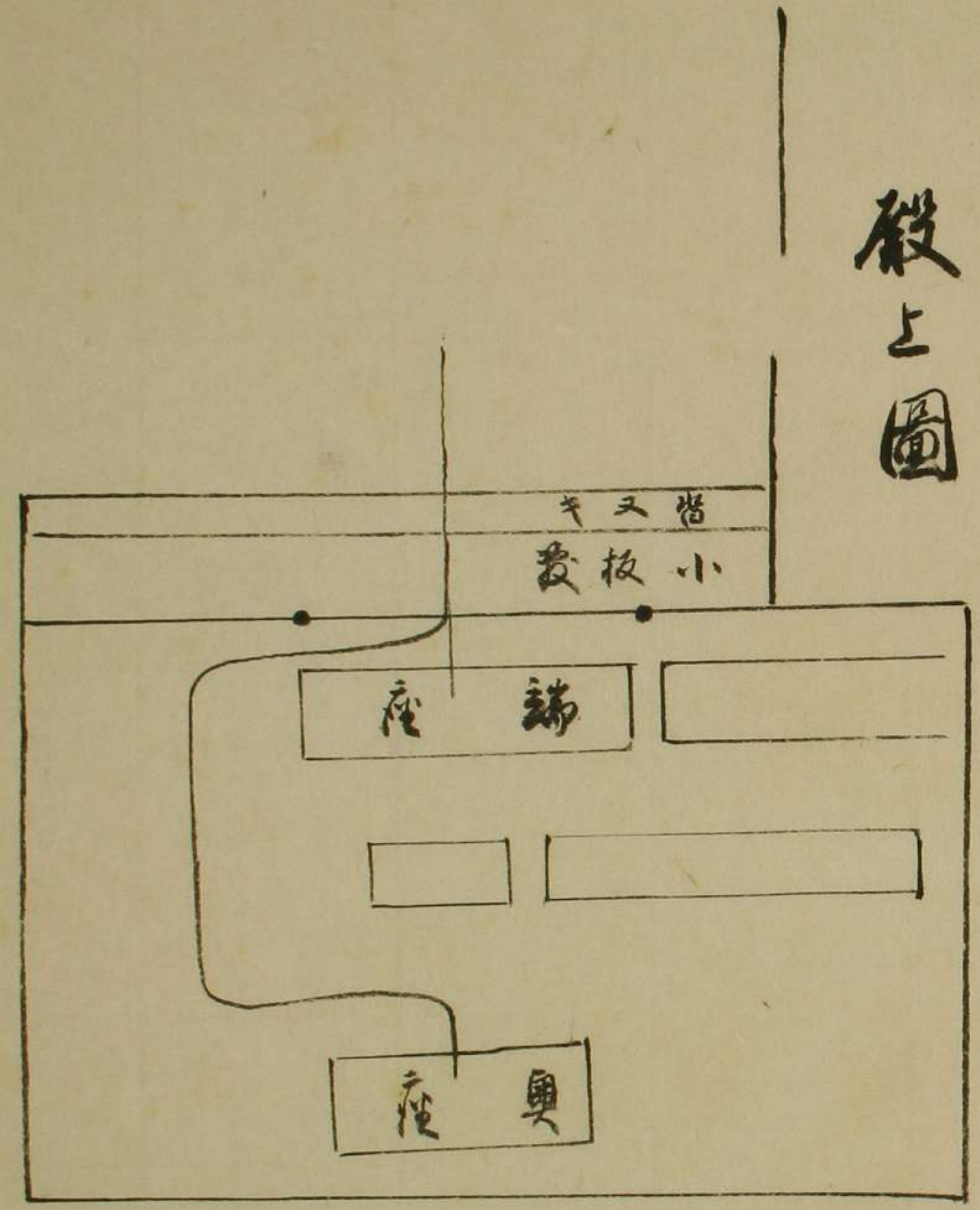
此時、右左長、丸糸家尚實、以

乙辨 後 冥白 左 右 分 一ノ 上 下
 集の 表 中 解 好
 日 月 月 日 月 右 左 右 左 表 陣 以 表
 鳥丸 是 亂 以 物 誤

殿上座

一 只 座 貫 志 右 の 座
 頭 中 為 頓 亦 中 以 志 右 座
 鳥丸 是 亂 云 日 野 家 三 貫 志 右 為 頓 賢 志 右
 川 志 眞 志 右 頓 修 志 眞 志 右 端 の 座
 是 志 右 座 の 座 志 右 座 志 右 座

殿上圖



以 帖 字 用 子
 親 之 帖 帖
 冥 白 日
 大 長
 善

